0630

C→R→EのR→Eの経路をsnifferで確認する.

今まではSourceにE, DestinationがCであったため,

SourceにR1, DestinationにCがあればよい.

【研究室で実施】

Ｃ：　院生の部屋

Ｒ1：院生の部屋出口

Ｒ2：廊下

Ｅ：エレベーター付近

Sniffer ：Ｃの付近に設置し, Ｒ1→Ｃの流れを確認

上記の位置に設置してＥ→Ｒ2→Ｒ1→Ｃの流れでデータ送信をした.

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, メール

自動的に生成された説明

上記の画像より,

SourceのExtended adressがR1(COM9), DestinationはCになっているため,

マルチホップ型になっている.